

Ⅲ 地域の魅力を拓くサイクルツーリズム

四季折々の美しい自然や街並みを五感で感じ、その土地の暮らしや文化に触れながら地域を巡ることのできるサイクリングは、旅先で楽しむアクティビティとしても近年人気が高まっており、自転車を通じた観光事業である「サイクルツーリズム」は、地域活性化の手段として大きな注目を集めています。

ここでは、外国人観光客の増加も背景に、『観光資源としての自転車』について考えてみましょう。

1 サイクルツーリズムを推進しよう

鳥取県には、日本最大級の砂丘「鳥取砂丘」、ユネスコ世界ジオパーク認定の「浦富海岸」、山陰八景の「東郷湖」、西日本最大級のブナ林を有する「大山」、ラムサール条約登録の「中海」など、国内外に誇る自然があふれています。

さらに、全国の都道府県で人口が最も少なく、開発の進行も緩やかであったことから、何気ない景色の中に、日本の原風景が数多く残されていることも特徴です。

サイクルツーリズムは、これらの鳥取が誇る自然や景色に、観光資源としての新たな価値を加えてくれます。

また、その盛り上がりは、サイクルツーリズムとしての観光需要の喚起に加えて、地域全体のブランド価値を高めることにも繋がっていきます。

地方を元気にする力を秘めているサイクルツーリズムを、県民みんなで盛り上げていきましょう。

1- (1) 魅力ひろがるサイクリングルート

鳥取県内には、鳥取の様々な魅力を感じることでできるサイクリングルートが県や市町村等によって設定されており、県では次の8ルートを設定しています。

- ・岩美町から境港市まで主に日本海沿いに県を横断する「鳥取うみなみロード」
- ・鳥取県と島根県にまたがるラムサール条約登録の中海を一周する「中海周遊ルート」
- ・海辺のまち境港市や皆生温泉と中国地方最高峰大山をつなぐ「シートゥーサミットルート」
- ・西日本最大級のブナ林を有する大山を一周する「ツール・ド・大山ルート」
- ・日本海のすぐそばを、秀峰大山を眺めながら走る自転車道「白砂青松の弓ヶ浜サイクリングルート」
- ・清流千代川、佐治川沿いに鳥取と岡山をつなぐ「鳥取岡山接続サイクリングルート」
- ・皆生大橋から伯耆橋まで日野川沿いを左回りに周回する「日野川周回サイクリングルート」
- ・ツール・ド・大山ルートとシートゥーサミットルートをつなぐ「だいせん山の手サイクリングルート」

さらに、「鳥取うみなみロード」と「鳥取岡山接続サイクリングルート」は、隣県のサイクリングルートと接続し、中国地方知事会でルート設定を目指している、中国地方5県の県境をまたぐ広域サイクリングルートの一部となっています。

国内外から鳥取県を訪れるサイクリストは、自転車というとても環境に優しい乗り物を使い、地元で様々な消費をしてくれるので、その多くは、とてもありがたいお客様といえます。

このような方々が、鳥取県への親しみを感じ、この地に何度も訪れたいくなるよう、私たち一人一人がサイクリストに対して温かく接するように心がけましょう。

そして、大人になるにつれて自転車に乗ることが少なくなってしまったみなさんの中にも、子どもの頃は自転車でいろいろなところを走り回った覚えのある方は多いのではないのでしょうか。

地元の事には詳しいつもりでも、意外と知らない道も多いものです。

サイクリングルートは路面上にルートが表示され、安心して走っていただけるように整備されています。

ぜひ県内のサイクリングルートを走ってみてください。地域の新たな一面、魅力を発見できるかもしれません。

【県の取組】

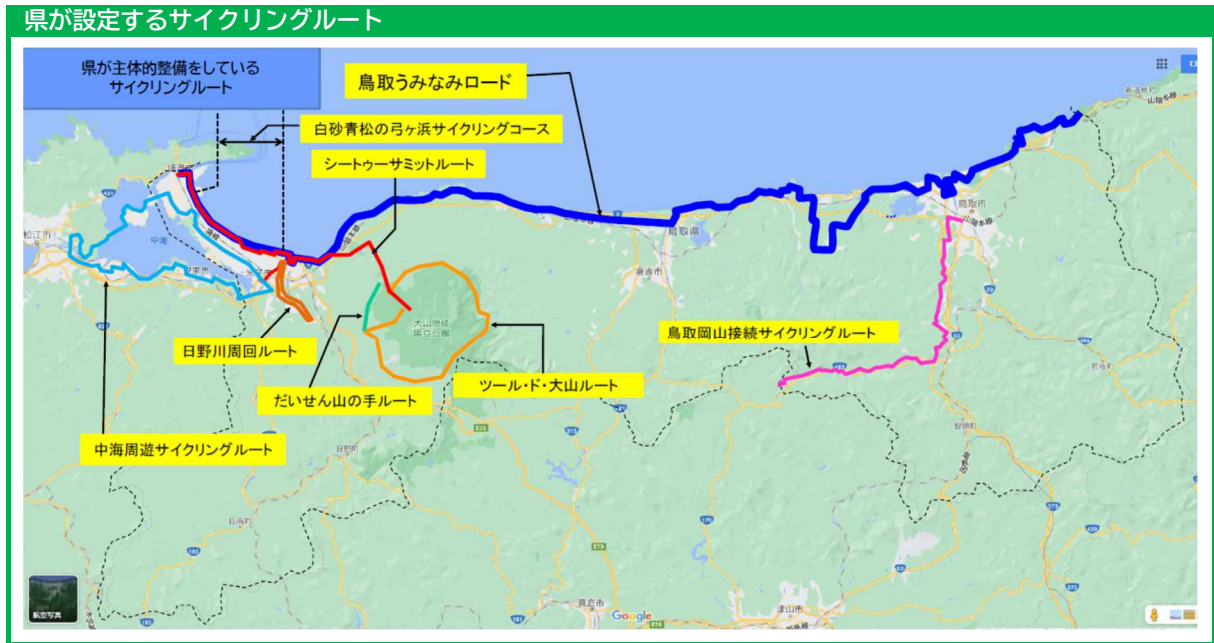
- ・サイクリングルートの整備や利用促進を図ると共に、新たなルートの開発を進めます。
- ・サイクリングの拠点づくりとして、市町村と連携してレンタサイクル環境整備を推進します。



大山のサイクリングルート



米子鬼太郎空港・大山を臨む美保湾の駐輪場



1 - (2) サイクリングで地域の魅力を発信

鳥取県に暮らす私たちとしては、様々な土地から訪れてくださる方々に、鳥取県の豊かな自然の中で爽快なサイクリングを満喫してもらい、「鳥取にまた来たい」と思ってもらえるだけでも、大変誇らしいものです。

しかし、それだけではなく、観光スポットや「食のみやこ」が味わえる店に立ち寄りたり温泉地に宿泊するなど、鳥取の様々な魅力も合わせて体感いただくことができれば、訪れてくださる方々の満足度も更に上がるでしょうし、私たちとしても、地域経済に貢献してもらえて嬉しいですね。

誰しも、土地勘のない場所への旅行に際しては、いろいろな情報がほしくなります。インターネット上の情報に加え、観光マップや旅行雑誌を活用して観光やグルメ等を楽しんだ方は多いのではないのでしょうか。

サイクリストも同じように、行ったことがない場所へのサイクリングに挑戦してみたいが、どういう景色が見られるのか、どういう食があるのか、どういう立ち寄り観光スポットがあるのか、温泉はあるのか等といった旅先の情報を望んでいます。また、サイクリストならではの情報、例えば、ルート上、坂が多いのか、平坦なのか、時間はどの程度かかるのか、トイレはどこにあるのかなどがわかると、とても助かるものです。

鳥取県では、ルートを示すだけでなく、絶景ポイント、近隣の観光情報、休憩スポットなども紹介し、自転車を通じて鳥取の旅を楽しんでもらえるようなサイクリングマップを作り、広く発信しています。

さらに、民間事業者においても、まだまだ数は少ないですが、鳥取ならではの自然や地形を活かしたサイクリングツアーが開発、実施され、人気を博しています。

サイクリングを切り口に、鳥取の魅力が多くの方に伝わり、訪れる方の「また来たい」と、地元の「また来てほしい」の好循環が生まれることが期待されます。

【県の取組】

- ・基本的なルート情報に加え、サイクリストのニーズに沿った情報を掲載したサイクリングマップを作成します。
- ・SNS を活用した魅力発信や、ホームページやマップの多言語化等により外国人等へ情報発信します。
- ・サイクリングを活用した観光メニューの開発やプロモーション等の取組を支援します。

サイクリングマップの例

(おもて面)



(うら面)



1 - (3) サイクリストへの安心サポート

鳥取県にサイクリングに行きたいけど、自転車は現地で借りることができるのか、休憩スポットはどこにあるのか、もし途中でタイヤがパンクしたり、自転車が壊れて走れなくなったりしたときはどうすればいいのか…。

鳥取県内に土地勘のない方にも安心してサイクリングを楽しんでもらうためには、ルートの整備だけでなく、サイクリストのニーズに合った情報提供や万が一の場合に備えたサポート体制も重要です。

鳥取県では、地域の施設・飲食店、交通事業者等と連携し、サイクリスト支援体制「ダイジョウブシステム」を構築しています。

「コグステーション(拠点施設)」、「サイクルカフェ(飲食店)」、「サイクルポート(コンビニエンスストア)」では、バイクラック(自転車スタンド)の設置や、空気入れ・自転車用パンク修理工具の貸出し、トイレの提供、飲料水の提供を行っているほか、サイクルキャリアを搭載したUD タクシーを使えば、万一途中で走行できなくなった場合にも、拠点施設や宿泊箇所等へ安全に移動することができます。

また、「サイクリストに優しい宿」では、客室や屋内で自転車を安全に保管できるなど、サイクリストが安心、快適に旅の疲れを癒すことができます。

サイクリストの様々な不安やトラブルをしっかりサポートし、安心快適にサイクリングを楽しめる環境をみんなで作っていきましょう。

【県の取組】

・地域の事業者等と連携した「ダイジョウブシステム」の整備、啓発を進めます。

鳥取県の「ダイジョウブシステム」

当初西部地域を中心にスタートした「ダイジョウブシステム」は、県内を横断する「鳥取うみなみロード」の整備も契機として全县に拡大し、コグステーション:11ヶ所、サイクルカフェ:151ヶ所、サイクルポート:119ヶ所、サイクリストに優しい宿:24施設となりました。

コンビニエンスストアとの提携によりサイクルポートが全县各地に展開されるなど地域の協力体制が広がり続けています。

サイクルポートやサイクルカフェには、バイクラック、空気入れ、修理機材(パンク修理キット、ドライバー、六角レンチ)を県が無償で貸与し、サイクリストへのサポートを支援しています。

鳥取県では、これからも地域の事業者の皆さんと一緒に「ダイジョウブシステム」の輪を広げ、サイクリストの「安心」を支えていきます。

コグステーション

サイクリングに関する情報提供の機能を持ったサイクリングの拠点となる施設であり、レンタサイクルの貸出や自転車ツアーを実施している施設もあります。

コグステーションという名前には、自転車を漕ぐ(こぐ)＝自転車を愛する人たちのステーションとなって欲しいという想いが込められています。

また、英語でCOG(コグ)は自転車の歯車の「歯」の意味があります。



サイクルカフェ



バイクラックが設置され、サイクリストが快適に食事をしたり、休憩したりすることができる飲食店です。「Cycle Café」のステッカーや看板が目印です。

サイクルポート



バイクラックが設置され、サイクリストが快適に買い物や休憩をすることができるコンビニエンスストアです。

鳥取県と包括業務提携を行っている(株)ローソン、(株)ファミリーマート、(株)ポプラ(ローソンポプラ)のほか、(株)セブン-イレブン・ジャパンの店舗(一部)で展開しています。

「Cycle Port」のステッカーや看板が目印です。

サイクリストに優しい宿



客室や屋内の安全な場所に自転車を保管ができるほか、荷物保管やランドリーサービスなど、サイクリストが安心快適に過ごせるお宿です。もちろん、バイクラックが設置されており、空気入れや工具類の貸出もあります。「CYCLIST FRIENDLY INN」のステッカーや看板が目印です。

サイクルキャリア搭載 UD タクシー

UD(ユニバーサルデザイン)タクシーは、大きなスライドドアや手すり・ステップなどで乗り降りがしやすく、障がい者や高齢者、妊婦の方など、誰でも快適に利用できるタクシーです。

サイクルキャリアを搭載した UD タクシーには、車内に自転車1台を積載することができ、通常の乗車料金と同じ料金で利用することができます。

※利用に際しては、タクシー会社に電話等で申し込んでいただく必要があります。



1 - (4) 公共交通機関との連携

旅先でサイクリングを楽しむ際に、現地でレンタサイクルを利用することも良いですが、愛用の自転車だと思う方も多いのではないのでしょうか。

自転車をマイカーに載せ、現地スタート地点まで移動することは、時間や行動範囲の自由度が高いというメリットがありますが、必ず自動車のある場所に戻ってこなければならぬという点が制約になります。

自転車は、解体又は折り畳んで専用の「輪行袋」に入れることにより、鉄道の列車内に無料で持ち込むことができますので、片道はサイクリングを楽しみ、もう片道は列車で移動という「片道サイクリング」ができれば、初心者の方や体力に自信のない方、いろいろな観光を楽しみたい方でも時間を有効に使ってサイクリングを楽しむことができます。

また、輪行袋に入れなくてそのままの状態を持ち込むことのできるサービスを「サイクルトレイン」といいますが、地域によって、一定の曜日に限り実施されている場合や、サイクリングイベント等に合わせて臨時的に運行される場合などがあります。

同様に、バスについても、輪行袋に入れてトランクに積み込んだり、自転車をそのままの状態ですべてに固定するなどして運ぶ「サイクルバス」が運行されている事例があります。

自転車と公共交通機関を組み合わせることで、また新しい旅の楽しさが広がるかもしれません。

より多くの方がサイクリングを楽しみやすい環境を工夫することで、鳥取県を訪れる方を増やしていきたいですね。

【県の取組】

- ・民間団体等が行うサイクルトレインやサイクルバスを活用したイベントに対して助成を行い、開催を支援します。
- ・片道サイクリングを手軽にできる環境を整備するため、鉄道主要駅等における輪行袋の貸出等の実施について検討します。
- ・サイクリストの利便性の向上のため、サイクルトレイン導入に向けて関係機関と検討します。

参考事例

JR東日本千葉支社では、千葉県房総エリアでのサイクリングをより気軽に楽しめるよう、自転車を折りたたまずにそのまま乗車することのできるサイクリスト専用列車「B.B.BASE」が運行されています。

「B.B.BASE」とは、「BOSO BICYCLE BASE」(房総バイシクルベース)の略称。

都心から近く、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた地域の特性を活かして、スポーツツーリズムによる新しい人の流れの創出と地域の活性化を目指そうとするものです。

2019年には、サイクルツーリズムの振興への貢献が評価され、同社は国土交通省の自転車活用推進功績者表彰を受賞されました。

地域と連携した様々なツアーやイベント企画、多彩なモデルコースの提案など、サイクルトレインを通じてサイクリングの様々な楽しみが広がっています。



出典：国土交通省ホームページ



出典：JR東日本千葉支社ホームページ

2 鳥取の魅力の世界に向けて発信しよう

近年、日本を訪れる外国人観光客の数は増え続けている傾向にあります。

外国人観光客の数は2013年に1000万人を突破し、2015年には1900万人を超えて、ついに海外旅行をする日本人の数を逆転。2018年には3100万人以上の外国人の方が日本を訪れました。

その理由としては、近隣のアジア諸国の経済成長や円安・LCCの増加等による旅行費の低減、訪日を促す官民連携のプロモーション効果等が考えられますが、日本の歴史や伝統文化に加え、アニメやゲーム等のエンターテインメントをはじめとする様々なコンテンツの魅力が外国人の方を惹き付けてやまず、それらがSNSを通じて広く共有・共感されやすくなっていることも大きな要因といえるでしょう。

そして今、日本を複数回訪れているリピーターの外国人観光客を中心に、観光ニーズは「見る」「買う」といったものから自分で実際に何かを体験する、行動するといった「体験型観光」に移ってきています。

サイクリングは、自転車という乗り物を使って自分の力で地域を巡るアクティビティであり、車での移動とは違い、ゆっくりと流れる時間の中で、土地の起伏、におい、風など、五感をフルに使って地域を感じることでできる「体験型観光」の1つです。

サイクリングを切り口に、鳥取県魅力を世界に発信していきましょう。

2- (1) 地域から 心つながるおもてなし

外国人観光客の方が日本を訪れる目的はそれぞれ異なりますが、近年は、その土地でしかできない体験を通して、驚きや感動、喜びや癒やしを得ることを求めている方が多いと言われています。

このため、国内では、外国人観光客向けのサイクリングツアーを実施し、地域活性化につなげている地域もあります。

現在鳥取県を訪れる外国人観光客の数は、東京や大阪といった著名な都市には遠く及びませんが、メジャーな観光地にはない地域性を磨き、しっかりと情報発信することで、外国人観光客の来訪数を増やしていくことは可能であり、サイクリングの分野では、その可能性が十分にあります。

外国人の方に鳥取県でのサイクリングを楽しんでいただくためには、外国語対応などの環境整備も大切ですが、鳥取らしさに磨きをかけ、鳥取でしか味わえない魅力を感じることでできる体験を、わかりやすく提供することがポイントです。

私たちにとっては日常的な風景であっても、異なる文化を持つ外国人にとっては新鮮に映るものがあるかもしれません。地域の暮らしや文化に直接触れることや、地元の人々との飾り気のない交流が、旅先での一番の思い出になることもあります。

令和元年には、一定の水準を満たした世界に誇りうるルートを国が指定し、サイクルツーリズムを強力に推進する「ナショナルサイクルルート」制度が創設され、現在、全国で6箇所ルートのルートが指定されています。日本が観光立国となるための要素として、自転車を活用した観光地域づくりは今、大きな注目を集めています。

外国人観光客の増加は、地域の消費拡大にとって大きなチャンスです。

観光産業に直接関わっている人もそうでない人も含め、地域全体でこのことにしっかりと目を向けましょう。

そして、私たちの地域が持つ貴重な資源を改めて見つめ、守り、磨きをかけて、外国人観光客に提供することで、地域の活性化に繋がっていきましょう。

【県の取組】

- ・鳥取県のサイクルツーリズム推進のため、「鳥取うみなみロード」を基軸に、別に定める「鳥取うみなみロード整備計画」に基づき市町村やサイクリング関係者と連携した環境整備等を進め、ナショナルサイクルルートの指定を目指します。
- ・サイクリングルートの標識や路面標示、観光案内看板等の多言語対応を進めます。

世界に誇るサイクリングルート 「ナショナルサイクルルート」

「ナショナルサイクルルート」制度は、インバウンドにも対応した質の高いサイクリング環境を整備し、安全安心な魅力あるルートとして国内外のサイクリストの誘客を図ること、そしてサイクルツーリズムを通して日本における新たな観光価値を創造し、地域の創生を推進することを目的として、2019年9月に新しく創設されました。

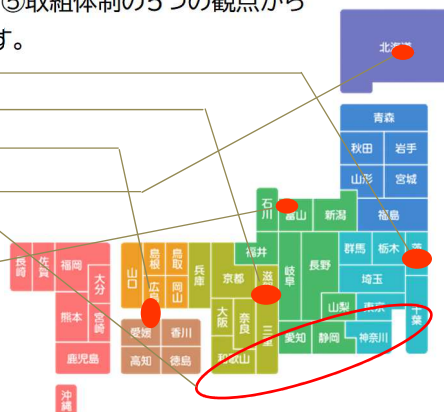
指定要件は、①ルート設定、②走行環境、③受入環境、④情報発信、⑤取組体制の5つの観点から設定されており、令和5年3月時点で6つのルートが指定されています。

- ・つくば霞ヶ浦りんりんロード(茨城県)
- ・ピワイチ(滋賀県)
- ・しまなみ海道サイクリングロード(広島県、愛媛県)
- ・トカプチ 400(北海道)
- ・太平洋岸自転車道(千葉県、神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県)
- ・富山湾岸サイクリングコース(富山県)

この制度を通じて、世界中の方にサイクリングの楽しさや日本の自然・景観の美しさ、豊かな文化の素晴らしさを知っていただくと同時に、サイクルツーリズムに取り組む地域それぞれの魅力がより磨かれ、発展していくことが期待されています。

新しいルートの指定等は、国の「自転車活用推進計画」の期間内に1回行われる予定です。

鳥取県もナショナルサイクルルート指定を目指し、サイクリング環境の整備を進めていきます。



関連資料

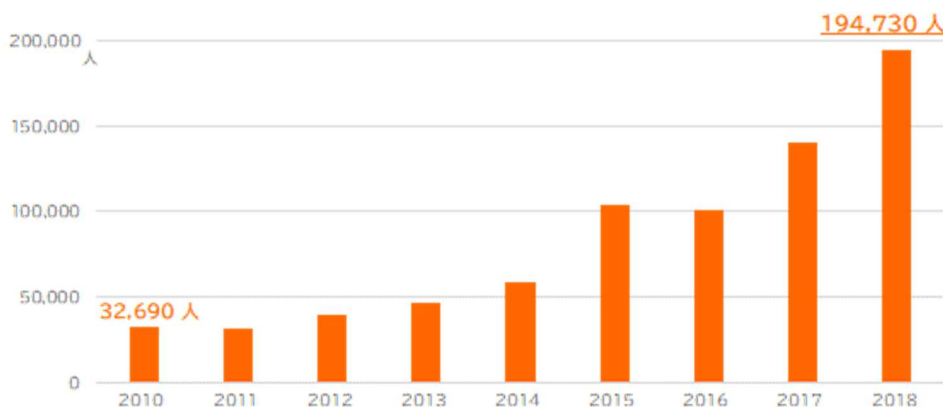
†日本を訪れる外国人数の推移(出典:日本政府観光局 訪日外客数年表より作成)

訪日外国人の数は過去15年でおよそ6倍に増加し、近年は出国する日本人の数を大きく上回っています。



†鳥取県における外国人延べ宿泊者数の推移(出典:鳥取県観光戦略課「平成30年観光客入込動態調査結果」より作成)

鳥取県に宿泊する外国人の数も、近年大幅に増加しています。



参考事例

岐阜県飛騨市に、毎年世界中から数千人の外国人観光客を集めているサイクリングツアーがあります。

(株)美ら地球(ちゅらぼし)が運営する着地型のツアー「SATOYAMA EXPERIENCE」の一つである「飛騨里山サイクリング」は、飛騨の暮らしを旅するガイドツアー。日本の原風景ともいえる、農村の美しさをスローペースのサイクリングでゆっくりと感じながら、英語に堪能なガイドが里山に広がる文化・歴史を丁寧に案内することにより、地域の魅力を十分に体感することができます。

また、地元の人とのふれあいもツアーの魅力の一つ。地域が協力してゲストの満足度を高める工夫を行っています。

ガイドブックにはない日常の風景の美しさや、人々の暮らしの中に息づく豊かな感性に触れることのできる体験は、日本を訪れた外国人の方にとって、かけがえのない思い出となるでしょう。



(出展:SATOYAMA EXPERIENCE ホームページ)

2-(2) 世界から観光客を鳥取へ

鳥取県には、自然や歴史、文化、食、温泉、多様なアクティビティなど、多くの外国人の心を惹き付けるコンテンツがあり、決してほかの都道府県に引けを取りません。

SNS の普及によって誰もが世界に向けて情報を発信し、影響を与え合うことができる社会の中では、地元の方々や実際に鳥取を訪れた方の体験や感想が大きな説得力をもって広がっていきます。

世界中から多くの方に関心をもってもらえるよう、鳥取県ならではの素晴らしさを守り、積極的に発信していきましょう。

また、一人一人の観光客におもてなしの心をもって丁寧に接し、来訪者の満足度を高めていくことで、将来の観光誘客に繋げていきましょう。

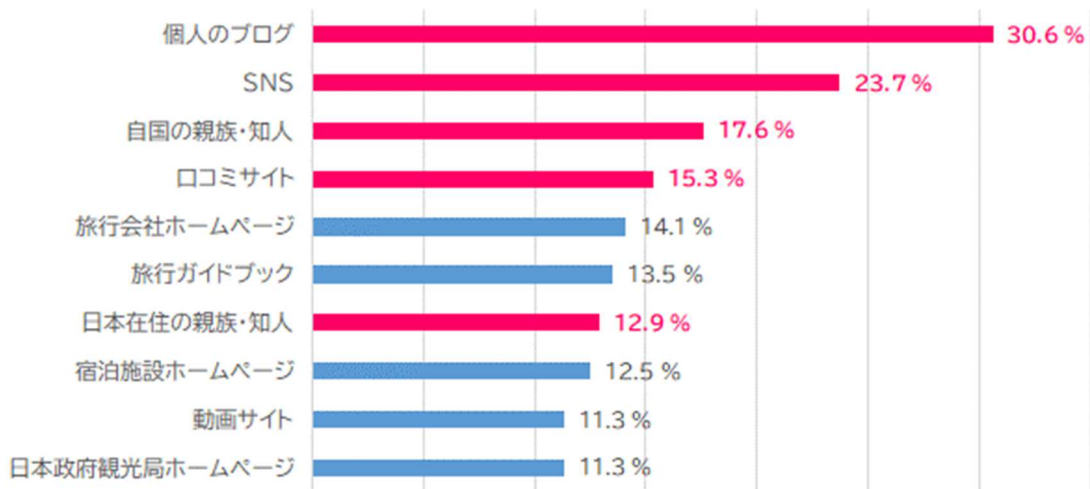
【県の取組】

- ・関係団体と連携した情報発信等により、幅広く国際的な観光誘客を推進します。

関連資料

†外国人観光客が活用している情報源(出典:観光庁「2018年訪日外国人消費動向調査」より作成)

多くの外国人観光客が、ブログやSNSを中心とした、個人から発信される情報を重視していることが分かります。



【自転車コラム】外国人が訪れるべき観光地 第1位は……鳥取県！

外国人向けに日本の観光地や生活についての情報を英語で紹介し、国内最大級の外国人向け日本情報サイトとして広く活用されている「ガイジンポット(GaijinPot)」。

そのガイジンポットが選ぶ、2019年に外国人が訪れるべき日本の観光地ランキング「Top 10 Japan Travel Destinations for 2019」において、なんと鳥取県は第2位の福岡市、第3位の代官山(東京)を押さえ、堂々の第1位に輝きました！

日本人にも大人気の東京や福岡ではなく、なぜ鳥取なのでしょう？

それは、名探偵コナンなどのポップカルチャーに触れられる観光地や、大山・鳥取砂丘など大自然の中での素晴らしいアクティビティの豊富さが高く評価されたから。

「何もない」と思っているのは地元の人だけなのかもしれません。

世界が認める「アニメと冒険の地」の魅力を、もっともっと磨き上げ、たくさんの方に訪れていただきたいですね。



1

Tottori Prefecture

ADVENTURERS AND THE ANIME CROWD ALIKE ARE NOTICING THIS BUZZWORTHY DESTINATION.

(出典:GaijinPot ホームページ)

2- (3) 自転車がつなぐ 地域の交流

日本と諸外国の間には、様々な繋がりがあります。

国同士の関係はもちろん、民間企業の事業活動や、教育機関・研究機関同士の連携、文化・スポーツ面での関わり、個人同士の交友関係や旅行による訪問など様々な形がありますが、「姉妹都市提携」などの地方自治体間の交流も重要な繋がりの一つです。

地域レベルの交流は、異文化理解等を通じて私たちの豊かな国際感覚を養うと共に、それぞれの地域のアイデンティティーを明確にし、地域の魅力や活力を高めていく手助けともなります。

鳥取県においても世界の様々な都市と活発な国際交流が行われていますが、2018年には、1997年の梨穂木の輸出以降20年以上の交流の歴史がある、台湾 台中市との間で友好交流協定を締結しました。

この台中市には、世界有数の自転車メーカーである「GIANT」の本社があり、台中市政府も自転車ツーリズムを積極的に推進していることから、それぞれで開催されている自転車イベントに相互に参加するなど、自転車を通じた交流が行われています。

国や人種が違って、自転車を愛し、楽しむ心は世界共通。自転車で走る喜びや素晴らしさを共に味わうことにより、両地域の交流の絆がますます深まっていくことが期待されます。

【県の取組】

- ・イベントへの参加など、自転車を活用した国際交流を行っていきます。

自転車を通じた台湾 台中市との交流



2018年に台中市で開催されたサイクリングイベントに鳥取県から参加するなど、自転車を通じた交流が行われています。



2019年には、鳥取市で開催されたサイクリングイベントに、台中市をはじめ台湾から約170名の交流団が参加されました。

サイクリングをきっかけに鳥取の様々な魅力を体感していただくことで、文化や観光など、様々な分野における交流が拡大・活性化していくことが期待されます。

